

ジュニアオリンピックローカルルール

①点差がついた場合

・6点差がついた時点の開始後から、4分・5分計をとめずに試合を行う。点差が縮まっても、時計はとめない。残り時間30秒の得点後のみ時計をとめる。

・6点差がついた後は、タイムアウトは取得できない

・A・C区分は1ピリオド、B・E区分は2ピリオド終了時以降、10点差がついた時点で試合を終了する。(1(2)ピリオド終了までは点差に関わらず行うが、終了時点で10点差がついている場合、2(3)ピリオドは開始しない)

※ただし、決勝トーナメントについては適用しない。規定通り試合を行う。

②タイムアウト

・全区分、1試合2回とする。

・予選において6点差がついた時点よりタイムアウトは取得できない。

③ゴールキーパー

・13番はフィールドプレーヤーとしても出場できる。

・1番以外の選手も1番と帽子を変更してゴールキーパーとして出場でき、またフィールドプレーヤーに戻ることも認める。ただし、帽子の交代は、怪我などの場合をのぞき、ピリオド間、およびタイムアウト取得時に限る。

④ペナルティシュート戦

予選ブロック

・各チーム5名をメンバーに選出した後、3人までの結果で決する。3人で決まらない場合は、4人目以降のVゴール方式とする。

決勝トーナメント

・規定通り行う

⑤ベンチ交代

夏

・3面展開時でも、ベンチ交換を行う。(会場の都合で変更になる場合がある。)

春

・3面展開時(予選トーナメント)までは、ベンチは交代せず、審判が1ピリオドごと交互に交代して試合を行う。

※夏・春とも決勝トーナメント以降はベンチ交換をルール通り行う。

⑥コールドゲーム時の得失点の扱い

・得失点の対象となる試合がコールドゲームのみの場合、①10点差以上の場合は、得点差、

②10点差で並ぶ場合は、コールドゲームとなった時間を総得点よりも優先する。